

8月上旬、新着皮革が阪急メンズ・トキョーで開いたイベント

西播磨の皮革産地

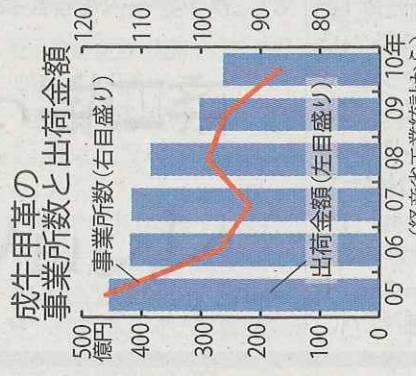
兵庫県南部、姫路市やたつの市など西播磨地域は日本最大の皮革産地。成牛に限れば、全国シェアは70%に達するが、年々生産量は減っている。これに歯止めをかけようと、バッグなど製品ブランドの開発が進み始めた。高くはないとされる皮革産地としての知名度を上げることも狙いの一つ。黒衣的な存在だったが、製品もトータルすることで、全国から業界関係者を呼び寄せようとしている。

製品ブランド開発に力 知名度向上狙う

全国から人呼び活性化へ

顧客に工場公開

レザーの宝庫と言われるトキョーを扱い、なめしから製品販売まで一貫で手掛ける世界唯一の企業、新着皮革（姫路市）は、早くから製品ブランド事業を始めている。メンズ中心のバッグ、小物ブランド「ウォームスクラフツ」がスタートしたのは10年前だ。



店舗は大丸・梅田店、同・京都店、阪急メンズ館、阪急メンズ・トキョー、博多阪急広キョーはもとも通商の催事でスタート。丸の内ビジネスマンに支持され、常設売場昇格し、売り場も大きくなっている。ブランド全体の売上げもここ数年は、前年比50%以上の伸びを続けている。

同社が今、重視しているのは、長

く使いたいという顧客のニーズにこたえること。ただ商品売るのではなく、ケを売ることになり方を入れている。

8月上旬、阪急メンズ・トキョーで、皮革製品のメンズファッション用品を扱う「メタタスファイト」(姫路市)と共同イベント販売会を開いた。伊三タタの製品を扱う同社は、車を長持ちさせるにはクリーニングやプロフェッショナルメンテナンスが重要という発想にたっている。新着皮革とのイベントでは3日間限定でメンズファッションの予約会を開き、3日間とも定員いっぱい、15人の予約が入る盛況ぶりだった。

ウォームスクラフツを通じて新着皮革が進めているのは、「日本の革文化の啓蒙」。同ブランドの顧客は革好きが多い。「日本を代表する革ブランドになってほしい」「応援している」といった声も聞くほど、顧客との距離が近い。

そこで、主に業界人向けだった工場見学会を一般に広げる。9月1日には各工程を見学し

産地に来てもらう

100年以上の歴史を持つタナリー、協伸(姫路市)は今秋、バッグ中心の製品ブランド「ザシザ」を立ち上げる。同社が製品を企画生産するのは初めてではない。今回は、革の製造はもともと製品の企画から販売に至るまで、自社の思い通りにやってみることが狙いにある。

日本の市場は、販路によって価格帯がだいたい決まっている。小売価格の上限が決まってしまうと、①使える素材が限られる②新しいものに挑戦しにくい③思ったようには売れない④といった懸念に陥りがちという。コストを優先させるのではなく、自分たちが作りたいもの、消費者が欲しがるものに絞ってこうという発想だ。

ラムのように柔らかな牛革など、個性のある素材を使う。裏地にはブランドカラーでもおなじみのオレンジに染めた鹿革を使い、ものづくりは妥協しない。縫製は外注だが、姫路市内の業

者へ委託し、あくまで姫路エリアにこだわる。もう一つ重要な視点は長く使ってもらえること。全商品にシリアルナンバーをつけて愛着を持ってもらい、修理などアフターケアも対応する。ハンドルの部分は(革の断面)には、イタリア製の樹脂を塗り、強度を上げる。

金田陽司社長は、ドイツでオートバイメイスター(皮革技術指導者)の資格を取得している。金田社長は11月9、10日、姫路で開かれる革の展覧会「レザーフェスティバル・イン・ヒメジ」の責任者も務める。革の産地、姫路に来てもらうことが目的で、今回が3回目。各出展者は製品も展示してイメージを出す



協伸の製品ブランド「ザシザ」

すいよう整備し、ウォームスクラフツのウォレットも設置する。「本当にいいものは丁寧にあり、工場を見てもらうことが一番いい。姫路に人を呼ぶことが大

事」という。

明日売るために今日買う一現金卸魅力

ワールドニュースのものづくり最前線

企画特集



企画特集

SENKEN

2012年 (平成24年)

8月30日 木曜日

織研新聞社

発行所 千103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町31-4

www.senken.co.jp

編集局 03-36664-2341 業務局 03-36639-8030 事業局 03-36639-8030 大阪支社 06-6343-2015 名古屋支社 052-231-2600 京都支社 075-221-2640 九州支局 092-761-6131 上海支局 +86-(0)21-6249-8300 パリ支局 +33-(0)1-42-25-00-38

ご購読は ☎0120-559801

織研新聞

今季のトレンドが一瞥に! EFashion Trend 2012 AW E-ファッショントレンド 2012AW 9/2(日)-20(木) 株式会社 エトワール 海外 www.etoille.co.jp

ぎよの紙面

経営 北京など8都市に拡

クロスカンパニー中国事業

素材・製造 新たな事業の柱確立

中堅アパレルOEM企業

流通 前倒しMDが奏功

中堅レディースアパレル「逆張り」戦略

商品 表情豊かな小物を提案

ニューヨーク国際ギフトフェア

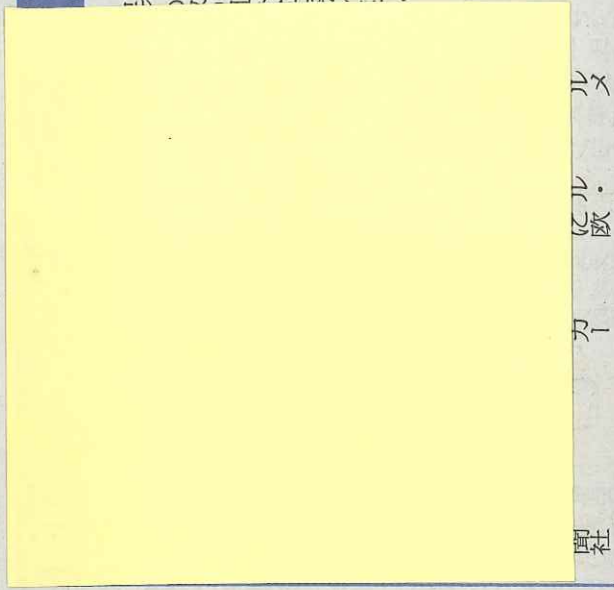
ニューヨーク国際ギフトフェアのシャパンパビリオンには、東北被災地の復興支援で14社、全体的で19都府県から36社と過去最大の参加数になった。

企画特集

欧州最新テキスト報告

総企画

◆「ルミネのOS推進」ルミネのOS (顧客満



者へ委託し、あくまで姫路エリアにこだわる。

もう一つ重要な視点は長く使ってもらえること。全商品にシリアルナンバーをつけて愛着を持ってもらい、修理などアフターケアも対応する。ハンドルの部分は(革の断面)には、イタリア製の樹脂を塗り、強度を上げる。

金田陽司社長は、ドイツでオートバイメイスター(皮革技術指導者)の資格を取得している。金田社長は11月9、10日、姫路で開かれる革の展覧会「レザーフェスティバル・イン・ヒメジ」の責任者も務める。革の産地、姫路に来てもらうことが目的で、今回が3回目。各出展者は製品も展示してイメージを出す

ちのとするところ。

西播磨地域産業振興センターは昨年秋、地元皮革を使ったバッグ、小物の「セバンス」の販売を始めた。製品を通して皮革産地の知名度を上げるとも、製品ブランド開発が活発になることを狙っている。

製品は植物タンニンなめしのヌメ革を使ったシンプルで実用なデザインが多い。デザインはハーブ実験デザイン研究所(大阪府豊中市)に依頼。同社の異業種交流ブランド「メタタス」のシリーズ商品となっている。

販売は同振興センターがリスクを張る。財団法人でありながら、製品在庫をストックし、百貨店やセレクトショップへ直販する。これまでは産地への側面支援だったが、自ら前に出た。

史を播 小説の 太郎の 二・近 自らの 出てい の姿を 194 り様を い今 題が